

幸せ無限大・不幸ゼロのまち 大洗の発展へ

大洗町長

國井 豊氏

対談

大洗町建設業協議会会長

大貫 茂男氏



くに・ゆたか 1965年生まれ、59歳。県立鉾田第一高校、日本大学法学部卒。明治大学大学院政治経済学研究所修了。大洗町議会議員、副議長を経て2020年9月大洗町長就任、24年9月2期目再選。元県行政士会会長。



おおぬき・しげお 1964年生まれ、60歳。足利工業大学土木工学科卒。2007年から大貫工業株式会社代表取締役。2015年から大洗町建設業協議会会長。県建設業協会水戸支部副支部長。町スポーツ協会会長など地元の要職も務める。

大洗町の國井豊町長は、本年9月に2期目の当選を果たし、新たな気持ちで町づくりを進めている。2期目の取り組みについて、大洗町建設業協議会の大貫茂男会長と、就任の抱負や期待、今後のまちづくりに関して推進していきたい事業、注力してほしい施策などを、それぞれの観点から語り合ってもらった。町長は「皆さんに情報伝達をしっかり行い、共感していただき今後も施策を精力的に進めていく」と意気込んでいる。

共感得て事業を展開

【建設業 業界に期待することをお話してください】
國井 まちづくりを進める上で、地元の建設業界はパートナー。民間視点の提案や意見をいただくことで、町での変化や社会課題に対応していく。事業の進め方についても同じ方向を向いて、一緒に研究できればと考えており、インフラの現状や知り尽くしている皆さんは、緊急事態や災害時、最も頼りに存在する。これからのまちづくりの場を尊重しながら、共に飛躍を求めていきたい。

大貫 建設業としての責任は、発注者や地域の住民の皆さんに満足してもらえる社会資本整備すること。その中で、安全第1に、品質の出来栄などに優れた成果を得て提供できるような努力が続けてきた。

自然災害や気象災害が起った時に、日々のインフラ整備をしていく中で培った技術や技術力、機動力を大いに発揮して行政に協力しながら、町の安全を確保すること社会的責任だと考えている。今後もその役割と責任をしっかりと果たして参りたい。

社会資本の整備を通して、大洗町の発展に貢献いたします

大洗町建設業協議会

愛功建設(株)
大川設備工業(株)
(株)大貫工務店
(株)大山緑地建設

オヌマ工業(株)
(株)菊地工務店
(株)木村工務店
(株)協和技建

(株)雲井工務店
コモリ工業(株)
(株)三勝建設
大 清 建 設 (株)

(株)田口工務店
(株)田山建材
(株)田山工務店
(株)戸塚建設

(株)野口工務店
平和建設(株)
(株)松屋工務店

共にまちづくり推進

【就任の抱負と町長への期待を聞かせてください】
國井 一期目の前半はコロナ禍で様々な制約の中、課題の抽出からまちづくりを行い、後半はふるさと納税や英会話教育の充実、イベントや観光対策などその成果が現れてきた。

大貫 大洗町には、ブランド力や知名度があり、海やビーチなど素晴らしい自然環境と観光資源がある。その高いポテンシャルを大洗町に産業界を充実させるための施策を固くして、持続可能なまちづくりを取り組んでいく。そのための取り組みをする中で人口減少に歯止めをかけ、地産地消や働き方の創出につけていくようなまちづくりを展開していきたいと願っている。

【安心・安全なまちづくりのためのインフラ整備として、2期目に重点的に取り組みたいことは】
國井 老朽化した水道管の更新については早急に対応しなければならぬ。水漏れは、すべての人が使う必要不可欠な社会インフラで、安定供給は何よりも優先されるべきことである。

3月のような大雨で漏水が起れば住民にも観光客にも信頼がなくなる。経済的な損失も大きなものなる。プロ・感を持って取り組むたい。消防庁の移動車についても建設費や老朽化をまね、高台である大貫地区に移転。本年度は実施計画を進めていくとして、大貫訓練センターの確保や女性職員の消防への参加に対応できるように配慮し、これまで以上に迅速な消防・救急活動が求められる際に住民の安全を担保できる施設とした。

大貫 近年、危機感されているのは、これまで想定されていたような大規模な地震や気象災害が毎年のように起っていること。そのような状況を踏まえて、災害に強いまちづくりの土壌を根本的にしていかなければならないのはない。

それによろ、これまでのインフラ整備を、基本的には計画からきちんと言明して、再確認していく必要性があると思う。

インフラ整備は当然、多額の財源が必要なので、どういった整備をどのような順序でスケジュールでやっていくのか、というところも含めて、優先順位をしっかりと決めて取り組んでいく必要があると思う。

更にいま一番の課題は水道の更新だ。当初20年で更新していく計画だったが、3月の豪雨を受けてこれを急ぎ、10年完成という更新計画にしてくれなと大洗町に。迅速な対応は、住民の安心、安全を守る上で大変重要だと思っている。引き続き、地元業者としてできることは一生懸命力をつけていく中で、行政と設計者、三位一体となって取り組んでいく。非常に非常に大変だ。人が生きていく上で絶対に欠かれない重要なインフラなので、スピード感をもって進めていく発注形態をぜひお願いしたい。

また、このところの物価の上昇や人件費の高騰など、この影響を受け、町の大型物件の不調相が続いている状況は、近い将来、大洗町に計画している大型物件が不調相にならないよう、しっかりと対策すべきではないか。

大型物件におけるB方式やE方式など、今までの競争入札ではなかった不調相の発注形態もある。いずれの場合も、デモリッ的存在は否か、それをどう管理するか。今後の大洗町の大型物件について、発注形態の検討を促したい。同時にわれわれ地元業者も、生業を維持していきたい。

になつて、いきなり空き家をオーダーに進めていくことも特に大事だと思う。ある一定のルールを決めて、そのルールの中で所有の情報を開示していただき、民間の力を有効に利用してもらうような仕組みを作りたい。

建設業全体としては、人手不足、担い手不足が大きな懸念事項にはなっている。その中で、雇用促進の促進のためには雇用環境の改善を同時に進めて、建設業をさらに発展させるための人材育成に力をつくさなければならない。素早い人材育成を促すような環境をつくらなければならない。これからのさらなる業界発展につけていきたい。

國井 町長はじめ、行政機関の指導をいただいているが、官民一体となって課題に取り組んでいきたい。今後ともよろしくお願いしたい。